

子供の感染症

子供の感染症は、流行する季節や年齢によって多岐にわたります。代表的な疾患とそれぞれの特徴、予防や登園の目安について。



1. 季節ごとの代表的な感染症

子供の感染症には、流行しやすい時期があります。

・春・夏に多い：

- ◎咽頭結膜熱（プール熱）：アデノウイルスが原因で、高熱と目の充血が特徴です。
- ◎ヘルパンギーナ・手足口病：口の中に水疱ができ、高熱が出る場合があります。

・秋・冬に多い：

- ◎インフルエンザ：高熱、頭痛、筋肉痛などが急激に現れます。
- ◎RSウイルス感染症：乳幼児は細気管支炎や肺炎になりやすく、ゼーゼーする咳が特徴です

・通年で見られる：

- ◎溶連菌感染症：喉の痛み、高熱、舌がブツブツになる「イチゴ舌」や発疹が見られます。
- ◎マイコプラズマ肺炎：乾いたしつこい咳が長く続くのが特徴で、学童期以降に多く見られます。

2. 主な疾患の特徴一覧

疾患名	主な症状	潜伏期間
インフルエンザ	38度以上の高熱、悪寒、頭痛、全身倦怠感	1～3日程度
RSウイルス	鼻水、咳、喘鳴（ゼーゼーする）、発熱	2～8日（通常4～6日）
溶連菌感染症	喉の痛み、高熱、イチゴ舌、体に細かい発疹	2～5日程度
手足口病	口の中、手足のひら、足の裏に水疱性の発疹	3～6日程度
水痘（水ぼうそう）	全身にかゆみを伴う赤い発疹と水疱	2週間前後

3. 感染対策と登園の目安

- ・ 基本の予防：こまめな手洗い、うがい、流行時の人混みを避けることが重要です。
- ・ 予防接種：麻疹、風疹、水痘、おたふくかぜなどはワクチン（VPD：ワクチンで防げる病気）による予防が推奨されています
- ・ 登園の判断：多くの自治体や園では、厚生労働省の「保育所における感染症対策ガイドライン」等に基づいた登園基準を設けています。

◎インフルエンザ：発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日（幼児は3日）を経過するまで。

◎溶連菌：適切な抗菌薬治療を開始してから24時間経過し、全身状態が良いこと。

オウル薬局